

## 全体会午後の部Ⅱ

**司会者(al・ak)** それではただ今より、全体会午後の部Ⅱを行いたいと思います。

午後の部Ⅱの司会を担当させていただきます松茂中学校3年 al と、松茂中学校3年 ak です。よろしくお願いします。



後半も3本の意見発表があります。まずは後半1本めの意見発表です。松茂中学校2年 ap さん「人権を語り合う中学生交流集会を通して」です。よろしくお願いします。

### 「人権を語り合う中学生交流集会を通して」 松茂中学校2年 ap

皆さんは、「ばか」とか「死ね」など、傷つくような言葉を言われたことはありませんか？私が中学1年生の時です。体育祭が終わり1週間ほど経った日、私はKさんに心ない言葉を言われてしまいました。私は当時、言い返せる勇気もなく、ただその場で泣くことしかできませんでした。幸いにも先生が来てくれたおかげで、大事にならずにすみしました。けれども、Kさんは先生に怒られただけで諦めてはくれませんでした。それから毎日のように、Kさんは私のことを傷つけ、苦しめていきました。親に相談をしようかとも思いましたが、迷惑をかけたくなかったので黙っていました。誰にも言えず、ただ家で泣いてばかりでした。本当に辛かった。死のうとも思いました。

ある日の部活のことです。3年団の先生が声をかけてくれました。その先生は、私に向かって、こう言いました。「人権を語り合う中学生交流集会に参加しませんか？」と、私を誘ってくれました。私は最初、「行きたい」という気

持ちより、「怖い」という気持ちでいっぱいでした。「また、いじめられる」そう思ったからです。家に帰って、両親に人権交流集会について話しました。「用事がないなら、行ってもいいよ」と、快く許可をもらうことができました。私は不安を抱きながら、人権交流集会に行きました。着いたとき、「どんな生徒たちが来ているのだろう」と、少し興味を持ち始めました。中に入ると、自分より年上の先輩がいました。みんなとても優しくしてくれました。中には、かわいがってくれる先輩たちもいました。そして私は、「ようやく自分のことを大事に思ってくれる人がいる」と気付きました。私は、今まで辛かったことをすべてみんなの前で話しました。ある人が、こんなことを言ってくれました。「apさんは悪くない。いじめをする方が悪いと思います。どんな理由があろうとも、いじめや差別はしちゃいけない」と、私の気持ちをわかってもらえました。その日、今にもこぼれそうな涙を必死にこらえていました。人権交流集会に参加したおかげで、私はいじめに立ち向かえるようになりました。あの時、人権交流集会の誘いを断っていたら、私はこの場にいなかったでしょう。本当にあの先生には感謝しかありません。



私は、人権交流集会を通して考えたことがあります。それは、いじめのない世界にすることです。しかし、いじめは、私だけの力ではどうにもなりません。だからこそ、みんなの力が必要です。いじめは、一人一人の協力がないと、なくならないと思います。いじめられている友達がいたら、声をかけてあげたり、いじめられているところを見つけたら先生に言うだけでもいいんです。これだけでも、いじめをなくせると思います。

現在、いじめや差別を受け、自殺する子が増

え続けています。こんな世界、誰も望んでいません。どうしていじめてきた人たちのために死ななければいけないのでしょうか。いじめを受け、毎日、辛い思いをしている皆さん、辛かったら、家族や先生に相談してください。味方は必ずいます。あなたは、一人じゃありません。みんなで力を合わせて、いじめや差別のない世界をつくりましょう。

ご清聴ありがとうございました。

**司会者(al)**    ありがとうございました。続いて、後半2本めの意見発表です。瀬戸中学校3年 dv さん「どんな人にも優しい社会」です。本日は、瀬戸中学校3年 ai さんが代読をします。よろしくお願いします。

### 「どんな人にも優しい社会」

瀬戸中学校3年 dv

皆さんは、人権学習についてどう思いますか。私は、小学生の頃からこのような活動が好きでした。自分が思ったことや考えたことが発表できて、自由や面白さを感じていたのだと思います。でも、中学生になって、それは少し違ってきました。人権学習の問いに対して、どう答えればいいのか分からなくなることが増えてきたのです。それは、自分の意見に対して、周りの友達はどう思うのかが気になり始めたからかもしれません。自分の発言で嫌われたりしないかななどと考えていると、人権学習が少し苦手になりました。このように感じているのは、きっと私だけではないと思います。



人権学習の時間に、先生から「感じたことを発表してください」と言われることがあります。そのとき、クラスのあちらこちらから「めんどくさい」という声が聞こえたり、考える気がな

いような様子が見られたりします。そんな空気の中で自分の考えを発表することは、とても勇気が必要です。

先月、人権学習で「スダチの苗木」の学習をしました。様々な問題に対して、他人事ではなく、自分事として考えることの大切さを学びました。それなのに、現状は、自分事として考えようとしていない人がいます。どうしたら、一緒に考えることができるのだろうか悩んでしまいます。でも、人権学習を通して、差別と向き合うことで、自分自身が解放されていくことや信頼がうまれることも学びました。私は、人権尊重は、「自分の意思や思いを語ること」から始まると思っているので、今の状況が良くなるようにこれからも伝えていこうと思います。

もう一つ考えたことは、人権学習では、一人一人の意見や考えが尊重されるため、「正解は1つではない」ということです。でもそれは、「何をしてもいい」ということではありません。人を傷つける言動は、どのような場面でもしてはいけません。いじめや差別は許されません。

私は人権学習は、意見や考え方、取り組み方が違っても、ゴールは「誰もが傷つかない社会」「どんな人にも優しい社会」に向かうための学習なのだと思います。

今年の1月にニュースで報道された事件について、深く考えさせられました。東京の法政大学で、留学生の女子学生が、突然ハンマーを振り回し、8人がけがをする衝撃的な事件がありました。この女子学生は、思い込みによって間違った解決方法を選んでしまったようでした。

人は誰しも、自分の考えに偏ってしまうことがあります。「自分が正しい」と思うあまり、他人の気持ちや状況が見えにくくなることもあるかもしれません。自分と違った意見や考えに出会ったとき、耳を傾けることが大切です。また、「自分ならどうするか」「自分ならどう受けとめるか」など、「自分なら…」と考えたり、偏見や差別に気付いたりできる人になるために人権学習を続けることが必要なんだと思います。

私はこれからも人権について、真剣に考え続けたいです。クラスの子が「なぜ、人権学習を面倒に感じるのか」にも耳を傾け、自分の思いを伝えていきます。私の理想は、「どんな人に



も優しい社会」です。そのために、私は、自分の言葉と行動に責任をもち、相手の心に寄り添う気持ちを忘れないようにします。その第一歩が、今、私たちが受けている人権学習の時間なのではないでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。



**司会者(ak)**    ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、後半3本めの意見発表です。徳島商業高校2年 bw さん「祖父と歩んだ時間」です。よろしくお願いします。

### 「祖父と歩んだ時間」

徳島商業高校2年 bw

皆さんは、中学2年生の17人に1人、高校2年生の24人に1人と聞いて、何の数字かわかるだろうか。これは、厚生労働省の調査によるヤングケアラーの割合だ。私たちのクラスに1人から2人いてもおかしくないのが現状だ。自分の中学時代を思い返すと、ヤングケアラーについて焦点を当てた学習をしたことはなかったように思うし、ヤングケアラーのことについて知識が乏しかったようにも思う。また、周りの友達や先生にも知識や理解が広まっていなかったように感じていた。自分が当事者だったということに気付かないまま。今でもまだ知れ渡っていないのを痛感する。

ヤングケアラーについて興味を持ったのは、中学生になり、ある1冊の読書感想文の課題図書に出会ってからだった。それは、「with you」という2021年の課題図書だ。主人公の朱音は、母親の介護をしつつ、幼い妹の世話、家事をすべて一人でやる中学3年生の女の子。主人公の生き様や人柄が自分に重なった。

私は、おじいちゃん子だった。家が隣のため、

毎日のように祖父の家に行っていた。出かける際も祖父の後ろをずっとついて行く、そんな子どもだった。それは、物心がついて小学校に進学しても変わらなかった。両親と出かけるよりも、はるかに祖父と出かけることの方が多かった。本格的に祖父の介護をし始めたのは、小学校高学年くらいだったと思う。祖父が頑固な性格だったため、私以外では手に負えなかった。私が、忙しくなるにつれ、祖父の介助をする時間が増えた。



そんなある日、転機が訪れた。中3に進級した頃だ。祖父は、急に体調を崩すことが多くなり、1日の半分をベッドで過ごす日が増えた。必要な物は、母に頼んだり、自転車で買い物に行ったりしていた。お風呂は自力で入っていたが、転倒などが怖く、お風呂から出てくるのを確認してから家に帰っていた。幸い食事は母が作ってくれていた。そんな状況の中、私は受験生になり、部活を引退するまでの期間は、なかなか勉強する時間がとれず焦りを感じていた。だが、友達や先生に相談することはできなかった。自分がやらないといけなから。両親は仕事もしているのに、祖父の介護も任せるとなると、持病があるのに体調を崩しかねない。それでは、家庭が崩壊してしまうと感じていた。あの頃はすごくしんどかったと、今となれば思う。中3に進級する前までは、祖父の介護をすることは当たり前すぎて困ったことなどは一切なかった。夏休みに入り、本格的に受験期に突入した。それでも時間を見つけ、買い物や介護を続けていた。8月の終わりには風呂場で転倒などと怖いと思うことも多々あった。

9月のある日、自分で起き上がることができなくなった祖父は、救急車で運ばれた。ベッドで寝たきりになっている祖父を見て、すごく泣きそうになった。私の今までの日常は、そこで

突然終わりを告げた。あの日のことは、今でも鮮明に覚えている。苦しい日々から解放された安心感と、祖父への心配の思いが、渦を巻いていた。その日からずっと転院をしつつ、入院をしていた。家に1度も帰ってくることはなかった。そんな祖父とは入院してから1度も会えなかった。まだ、コロナ禍であったため、未成年である私は会えないまま、昨年、息を引き取った。

私自身が、全国で約50万人以上いるとされているヤングケアラーの当事者の1人として、皆さんに伝えたいことは、もっともっとヤングケアラーについての理解が広まってほしいということ。友人や先生の中には、興味がないから知らない、近くにいないだろうと思っている人もいた。しかし、実際はクラスに1人から2人いてもおかしくない状況だ。そんな人事の問題ではない。こんな近くに当事者がいるのだから。

徳島県でも中学生の2.8%、高校生の2.3%は、ヤングケアラーの当事者だと発表されている。また、困ったこと、苦しいことを打ち明けられる環境を整えることは、すごく大切だと感じた。自分が祖父のことを友達や先生に話したのは、入院してからだ。もし、クラスメイトや友達が打ち明けたら、そっと寄り添ってあげてほしいと思う。一人で家族を支えている子の中にはいるかもしれない。もし、あなたを信頼して打ち明けてくれたなら、話を聞くだけでもいい。そばにいただけでもいい。それだけで少しは心が軽くなると思う。私も初めて、先生や友達に話したとき、少し心が軽くなった気がした。一人一人の理解や正しい知識が広まることで、私と同じ思いをしている子が生きやすい世の中になると思う。祖父と2人で歩んだ時間は、決してネガティブなことではなかった。逆に、貴重な経験ができたと今では思っている。私は、こんな思いをしている子たちに寄り添える人になりたい。

私が今、思うこと。それは、ヤングケアラーについて皆さんはどう思うのか。そして、あなたには何ができるのか。この機会にそれらを考えてみてほしい。

ご清聴ありがとうございました。

**司会者(al・ak)** ありがとうございました。どう

ぞ元の席に戻ってください。

それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者の皆さんの思いを語っていただければと思います。また、前半で発言しきれない人や、付け加えるような内容のある人は、これが最後のチャンスとなりますので、ぜひ発表してください。

なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。

**瀬戸中学校 2年(aj) bw** さんの作文で、恥ずかしながらヤングケアラーという言葉初めて知りました。私にも元気なおじいちゃんとおばあちゃんがいるんですけど、そういう死んじゃうみたいなの、体が弱くなるみたいな、未来が来るのかなあとって。最近、祖母が、お風呂場で足を滑らしちゃって、浴槽に頭ガンてなって、入院したみたいになって。何かそういう介護する未来も来るのかなって、この作文を聞きながら思いました。来るかもしれない未来に向けて、ヤングケアラーということをもっと学ぼうと思いました。ありがとうございます。



**鳴門渦潮高校 2年(bz)** ボクは、前半ちょっと話すのを控えてたんですけど、もう我慢できないので話そうと思います。今日の意見交換を6つ聞いて、前半の話ともう全部聞いて、共通する点とか、ここやっぱり似てるなっていう点がたくさんあって、少し言おうと思うんですけど。

1個だけ言います。午前中の時に、「無知は恥だ」ということを皆さんちょっと議



論にね、なってたと思うんですけども。昼食時間中とかも、友達と話してて、「無知なことが恥なのか」ということになったんですよ。「知らない」ということが恥ずかしいんじゃないで、知らないっていうことをそのままにする」ということが、本当に恥ずかしいことではないかなっていうふうに思っ。前半の午後Ⅰの意見発表で、無関心についての話があったんですけど、無関心っていうのは、情報がある中で知ろうとしないっていうのが無関心だと思うんですよ。何も情報がない中で、無関心だと言われても、だって何も知る術がないからしょうがないじゃないですか。例えば、今日聞いたヤングケアラーの話だったり、いろんな話を知ろうとする、情報を自分の中に入れようとするっていうことは、例え無知な状態であっても、知ろうとするっていうその意思がある人は恥ずべきことじゃないんじゃないかっていうふうに今日の話を聞いてちょっと思いました。なので、さっきもヤングケアラー知ったって言ってきて、もっともっといろんな言葉を知ってほしいし、どういう社会なのか、どういう現状なのか、自分の目の前にいる人はどういう人間なのかとか。これから付き合い合っていく人はどんな人かな、ということを知ろうとするっていうことを、もっとしてほしいなっていうふうに、今日の話を聞いて思いました。



もちろん選挙の話もそうで、選挙に行くってことは、社会を知ろうとするってことと一緒にだと思うんですよ。ふつうに何か、「この人かっこいいな、入れよう」じゃなくて、「この人、こういう政策を立ててるんだ」とか、「こういう考え方してるんだ」とかい

うふうに、自分でいろいろ知っていくことが、社会がどんどん良くなっていくことに繋がっていくんじゃないかなっていうふうにボクは思いました。なので、今日、いろんな言葉とか話とかを聞けたと思うので、ぜひ今日、家に帰って家族とかに、「こんな言葉聞いたよ」とか、「こんな話があったよ」とかいうのを、いっぱい話してほしいなというふうに思います。あと、ぜひ献血に行ってください。また話すかもしれませんけど一旦終わります。ありがとうございます。

**板野中学校 3年(ac)** 1本めの「人権を語り合う中学生交流集会を通して」というので、いじめを受けていて、この中学生交流集会を通して、そういうのが救われたっていうのを聞いて、私も自分が今までもった考え方を改めて見直せるような機会が、この中学生交流会に来て変わったっていうのがあって。



例えば、今日まさに1つ考え方が変わったものがあって、献血についてなんですけど。私、すごく注射が大嫌いで、もう子どもっばいかなと思うんですけど。腕に、自分の体に、針という異物を投入する感覚が、もうおぞましい。あり得ない。私、弟がいるんですけど、弟は注射が好きって言ってて。さすがに「注射は大丈夫」と言っても、好きまでいかないじゃないですか。人間じゃないのかなって。ちょっと話が逸れましたけど、注射が嫌いで、お出かけとかする際に、たまに献血の車とかを見かけて、私のお母さんに「acちゃんも献血行ってみる？」みたいな感じで言ったら、聞かれて0.1秒程度で、「嫌だ」という感じで。「献血なんて死んでも行かない」みたいな感じの

イメージを持っていたんですけど、bzさんの話を聞いて、自分がちょっと痛い思いをするだけで、自分の命が危ない、もっと苦しみを味わっている人の助けになれるんだなって思ったら、私も献血ができる歳になったら行ってみようかなって思えるようになって。

だから私、中1から交流集会に来て、3年めになるんですけど、こんな感じの意見の変化させてくれるんですよ、こういう会は。今日で終わっちゃうんだなと思ったら、少しもったいないと思うんですけど、また、こういった会を見つけたら参加したいなと思っています。以上です。ありがとうございました。

**小豆島中学校2年(bo)** 作文の1つめと3つめについてで。1つめは、なぜいじめる人のために被害者の方が死んだりしなきゃいけないのかっていうので、もう、ほんとにそうで。少しずつかもしれないんですけど、海外とかだと、いじめてる側に問題があるって思われて、いじめてる側を別教室に移してケアをするみたいなことをしているけど、日本ではその逆で、いじめてる側じゃなくて、いじめられている側を別教室に移すみたいなことが多いので、そういうのが少しずつでも変わっていけばいいなと思っていました。



3つめのヤングケアラーについては。私、今もしばらく祖父母の家で住まわせてもらってるんですけど、祖父の方が体の調子もうずっと悪くて、祖母が結構、世話をしているんですけど。このまま祖母も結構、年なので、祖母まで体が悪くなって世話ができないようになってしまったら、もうだめだなって思って。私の両親もすぐに来れ

るところに住んでないので、このままずっと続くと思わないで、ちゃんと考えていく必要があるなと思いました。以上です。ありがとうございました。

**小豆島中学校3年(bi)** 1本めの作文についてなんですけど、先ほど話した私の体験談に繋がっていて、カミングアウトをしたときに、気持ち悪いとか、biちゃんはみんなと違うのかなとか。もちろん「死ね」って直接言われたときもあるし、裏で陰口を言われてるときもありました。1つ上の先輩にいじめられたときもあるし、そのときは私自身も「コロナ禍で死んだ方が楽なのかなあ」とか、「学校に行くのやめようかな」って思った時期もあったんですけど。そのときに誰かに相談したくても相談できない自分が本当に嫌いで。当時、担当だった先生は、本当に一人一人の生徒をちゃんと見てくれる先生で、私の違和感にも気付いてくれて。そのときに、自分がいじめられていることについて話したんですけど、本当に人に話すのって勇気がいることで。その大きな一歩を踏み出せるか踏み出せないかで、自分がこの先どう過ごしていけるか変わると思うので、これから悩んだときとか、本当に勇気がいるけど、信頼できる家族だったりとか、友達とかに相談したいなと思っているのと、さっき1つ言い忘れてたんですけど、私もしゃべるのが大好きで、親には寝てる時以外は一生涯しゃべってるんじゃないかって言われるぐらいしゃべるんですけど、皆さんよかったらしゃべりましょう。ありがとうございました。



**瀬戸中学校3年(ai)** 今回の、最後のこれを全部通して、毎回出ている言葉があるなあっ



て、代読しながら気付いたんですよ。それが、「考える」っていう。dvさんの代読したんですけど、「考える」っていう言葉が7個ぐらいあるんですよ、見たら。「自分ならって考えたり」って書いてますよこれは。先輩が読んだやつにも、もし自分がヤングケアラーの人だとして、クラスの周りの子が、ヤングケアラーでもないのに、ヤングケアラーのことを知っているかのように、何も考えずにしゃべっていたら、めちゃくちゃむかつくんですよ。「考える」っていうのが、人権においてめちゃくちゃ大切です。この前、森口先生も「お前、何も知らんのに何かむかついて」みたいな。「きれい事ばっか言うて、知らんと適当に言よることにむかついた」みたいなこと言よって。やっぱ人権学習とかは考えるが一番大切なのではないかなと思いました。ありがとうございました。



**小豆島中学校 2年 (bm)** 3個めの作文で、ボクのおじいちゃんおばあちゃんはちょっと危ないときがあつて。おじいちゃんも今ちょっと腰が痛いって言ってて。いつ会えなくなるのかちょっとわからなくて。いつか会えなくなるのかなと思って、ちょっと不安になって。今できることないかなあつて考えて、電話します。帰って真っ先に電話します。「ありがとう」って伝えます。それだ



けです。ありがとうございました。

**藍住中学校 3年 (ab)** 2番めの dvさんの意見で、「他人事ではなく自分事に」っていうことを考えるのがとても大切だと思いました。そのために「自分なら」と考えて、自分の思いを語るのが大事だと改めて考えさせられました。誰もが生きやすい世界に私もしていきたいと思いました。ありがとうございました。



**松茂中学校 1年 (aq)** 今、歯の矯正してて活舌が悪いんですけど、あたたかい目で見てください。私のおじいちゃんとおばあちゃんは、たばこ吸ってて。おじいちゃん最近、禁煙してるんですけど、おばあちゃんは、まだ吸ってて。おじいちゃんとおばあちゃんは、昔に手術とかして、肺が多分めっちゃまっ黒なんですよ。今、61で、まだ全然生きられると思うんですけど、たばこ吸わなかったら。いつ死ぬかわからん状態で、「やめて」って言うってもやめてくれんし。おじいちゃんとおばあちゃんは、犬も飼ってるんですけど、犬もかわいそうで。私たちも体に害がある。だから、いつ病気になってもおかしくない状態だから、ホンマにやめてって伝えようと思いました。



**松茂中学校 2年(ap)** 3番めの作文で。父の方のおじいちゃんがちょっと病気を抱えてて、ちょっと軽めの病気とかどうのこうの言っていて。うちのお父さん、めっちゃ心配しとって、心配症すぎて。お仕事帰りにいつも「じいちゃん生きとるか？」言うて、家に行くんですよ。たまに私連れて、「じいちゃん生きとるか言うて来て」とか、たまに言ってきて、「何で私やねん」って思わず言っていました。私のおじいちゃんも今年で80となって、いつ会えなくなったりとかするんが、とても怖いなって思っております。今のうちに、たくさん会いに行行って愛情を注ぐ予定です。これで終わります。



**城南高校 1年(bs)** 3番めの bw 先輩の作文の感想なんですけれど。私の父親の話をするんですけど。私が4歳、幼稚園の年中の頃に脳梗塞で倒れまして。そのまま死にはしなかったんですよ。一命を取りとめたんですけども、左手と左足が麻痺して、使えなくはないけど、歩くときも左足を引きずって歩いたり、左手もうまく掴めなかったりして、何ていうんでしょう。ちゃんと障がい者になってしまったんですよ。年長さんの間は、ずっと入院してて、小1からようやく退院して、家族4人で過ごせるようになったんですけど、そのときも、左足と左手は使いにくい状況で、介護とかは、全部母がしてくれてたんですよ。私自身はどうかっていうと、私はそんなに何もしてなくて、父親が私の遊び相手になってくれてただけなんですよね。

私は、父親のことがあまり好きではなくて、当時。というのも、もともと倒れた時って香川にいたんですよ。私が小1の頃に徳島に来たんですけど。戻ってきたんですけど。

父親が倒れることさえなければ、私は小2で戻ってくる予定だったんですよ。それが、お父さんが倒れちゃたから、小1で帰ってこなきゃいけなくなって。香川での友達との関係性とか絆とかそういうのもあるのに、帰って来なくなかったのに、何で帰って来てもうたんやとか。父親のせいで、脳梗塞になってしまったんで、その血糖値を上げないために、お砂糖とかお塩とか、そういうのを極力抑えたり、油ものとかも控えるようになって。多分、私の家のお味噌汁を飲んだら「薄っ」って皆さん言うと思うんですよ。私は、それをずっと食べてきたんで、別に何ともないですけど。めっちゃ減塩の味噌とか、おしょうゆとかを使って、めっちゃ薄味のお味噌汁だとか、煮物だとかそういうものばかり食べてきて。

だから外食もなかなか行けなかったし、旅行も行けなかったし、何もできなくて。「何でこんなことになってしまったんよ、お父さんさえ、おらんければ」ってずっと思っていて。そんな中で、もし母親がいなければ、私はお父さんの介護なんかしていたんだろうか、お父さんのことなんか見守っていたんだろうかと思って。bw先輩は、それを介護するのは当たり前っておっしゃったと思うんですけど、多分、私は、それは絶対できないなと思って。小1にまずできないうんは一旦置いて。そもそも、できたとしても、やらなかったかもしれんと思う意味では、めっちゃめっちゃすごいなあと思いました。



今では、父とも、けんかはまああしますけど、そんなにすることもなくなって。中2くらいの頃に旅行をして、だいぶ仲良くなったんですけど。でも当時だったら、



絶対にお父さんの介護なんかしなかっただろうなと思って、すごいなと、bw 先輩すごいなと思いました。以上です。

**小豆島中学校 3 年 (bk)** 1 個めの作文のいじめについてで、いじめはなくなるのかということ、学年で考えることができました。アンケートをして、「なくなる」がほとんどで、その理由が、「いじめは人間の勝手な偏見や思い込みから始まるから、消すことがなかなかできない」ということでした。そこから、いじめがなくなるという考え方がまず、なくなる原因だと思いました。作文を聞いて、一人一人の協力がなくなるとなくなるという考え方にすごく共感しました。



**徳島科学技術高校 3 年 (bt)** (ステージに上がる)ボクなりのおしゃべりをしなければいけないという価値観がありまして。私がここに来たのは、中学校 3 年生のとき。今から 4 年前ですね。それまで中学校 1 年生、2 年生のとき、私は不登校でした。でも、いろいろあって。病気になって。中学校 3 年生のときにね、水族館に出会って、「水族館ってすげえ、こんな仕事してえな」って、帰ってきたわけですよ。

中学生から高校生になんとかなれて、「科技高の海洋、やりたいことができる。最高！やっぱ人生楽しいことしなきゃね」。そんな中で出会ってきて、そしてボクを育ててきたのが、この場所。だから最後に言いたいことが 1 個ある。ボクが、高校生活を頑張ってきて学んだことです。

高校生になってね、ボク中学校に行けなかったから体力ないのさ。自転車を 30 分こぐってというのが、もう地獄、ホントに。今の

時期とか暑いしね。最悪なのよ。体力もない、知識も、海洋にホンマにゼロから入ったから、「サバとサンマの違いって何なんですか」みたいな状態から入って、めっちゃ劣等感感じたんですよ。人と比べて。めっちゃくちや辛かった。本当に辛かった、あの時期は。「自分は何て、できないんだろう」「何もしてこなかったからじゃないか」「ボクに何ができるんだ」そんな気持ちで。だけど、やらなきゃ変わんないからやった。やりまくった。

ここの活動も、その一環だった。お話をする練習ということで。部活にも入った。生き物を飼う部活だった。ボクは「ベタ」っていう、ちっちゃいお魚を飼ってた。けど、いろんなことがあって、その子を死なせてしまっ。部活動では、生き物が死んだら、その生き物を燃えるごみに捨てるとい、なかなか酷いことをしていた。苦しかった。でも耐えた。でも、ボクはそれを変えようとした。変えようと思っ。そしたら、どうなったか。ボクが、独りぼっちになった。今までそんなこと誰もしてなかったから、今までみんなゴミ箱に捨ててたから。誰もわからなかった。で、やめた。副部長の候補にまでなったけど、やめた。やめちゃった。頑張った。超頑張った。頑張りすぎてね、ボク、パニック障害になったんすよ。高校入ってから。うつ病も再発しました。ほんだけ寝る間もなく、ホント夜中の 2 時に寝て朝起きる。6 時半とかに起きる。自転車こぐ、体力使う。へろへろでも、ボク真面目なんで、授業を受ける。そのまま部活やる。みんなは、部活 5 時ぐらいに帰る。ボクは 7 時までやる。そんな日々だった。苦しかった。それだけ必死にやってきて得られたものは部活の称号じゃなく、生き物を守れた自分じゃなく、逃げて病気になっただけの自分だった。「いったいボクは何をしたんだ」って思った。でも、やめるときにこうも思った。「やめるんだったら、自分が死なせた命と同じ価値を見いだしてやろう」って。「自分が、ここから頑張っ。あの子が死んだけど、あの子から学んだん。だっ。言えるくらい頑張ろう」と思った。

そして何より気付いたことが1個ある。頑張りすぎたら人って壊れる。絶対そう。今の日本人ね、余裕がない。ないでしょ。

中学生の皆さん、高校生の皆さん、期末テスト・学年末テストあったね。大人の皆さんはどうですか？「今、目が合っております。お名前は？」「ちなみにお仕事は何をされていらっしゃるんですか？」忙しいですか？そうですよねえー。そうだと思います。しかもお給料がどうのこうのって言ってね。今ね言われてるじゃないですか。大変なんですよ。みんな大変なの、ホントに。社会のどの場所にいる人間も、みんな等しく忙しい。日本は特に。そして、ここの人権活動でも学んだように、いろんな人間がいる。そこでボクは思う。学ぶことが必要だって、誰か言ったね。言ってくれた子がおる。学ばなきゃいけない、いろんなこと。でも、その倍ぐらい余裕が必要なんよ。余裕がなきゃ、人ってやっていけないんだよ。だってさ、寝不足でいろんなことやらなきゃいけないことがたくさん控えてて、そんなときに隣の人のこと考えられますか。余裕ある？ないやない。自分のことで精一杯。いろんな人のことを考えるには、精一杯すぎていけない。難しいんだよね、このバランスが。がんばらなきゃいけない。けど、余裕もつくらなきゃいけない、そのバランスが難しいから、生きるのってとっても難しいんだと思うんですよ、この社会で。けど、キミたちは、すでにそれをやろうとしている。学校に行って、頑張っている。それだけで、どんだけすごいかって話ですよ。不登校時代のボクからしたらね、なんなら、こんなに人前に立ってお話しする人がいる。すげえ、マジですごい。だからこそ、もっと自分を労わろう。マジで自分を労ったら、他人を労れる。他人を労れるようになったら、どんどん活動の幅が増えるのよ、人脈が増えるの。仲良くなれる人が増えるの。そうしたらどうなるか。行動の幅ができるやん。いろんなところに行けるようになるし、いろんな人にさ、例えば「先生、ちょっとあそこの水族館紹介してくださいよ」「あー、いいよ」みたいなノリで。

ボク、実は来週、日和佐のうみがめカレッタという博物館があるんですけど、その館長さんと共同研究をさせていただくことになっておりまして、という感じですね。人脈ってめっちゃすごい、思いのほかね。だから、その隣の人だけでもいい、最初はね。隣の人を大事にできるように自分を癒やそうというのが、ボクが心から伝えたいこと。何をするにしても、まずは自分を大事にする。そして、自分を大事にしたら、できてない人を見つけたら、大事にしてあげよう。その余裕をボクらは各々もっていく。辛いこと、苦しいことみんなあるのさ。みんなある社会の中で、生きて行こうっていうのが、ボクがこの場所で、みんなが心をさらけ出して、癒し合って、支え合おうとしている社会、この場所で最後に言いたかった。みんな Love and Peace。自由に生きよう。そして楽しもう。余裕をもとう。選挙に行こう！



**鳴門渦潮高校2年(bz)** 僕には何分くれますか。9分。ボクは森口先生の名にかけて、ここでは引き下がれないと思いまして。森口先生、さっき帰られました人権マスターなんですけれども、その一番弟子として、ここで頑張って発表しようと思います。何も考えてなくて手を挙げたんですけれども、楽に聞いてくれたらいいなって思いますね。

ボクはこの人権集会に参加して、早5年経つんですけれども。いろんな人とね、いろんな人の話をたくさん聞いてきて。さっきのbt先輩の熱い話も聞いて。やっぱ生きるって素晴らしいなっていうふうに思いました。今日の午前の部の話に、またなるんですけど、bsだったっけな。「生きるって素晴らしいな」って言ってたと思います。皆さんの意見とかを聞いても、「おじいちゃんが



もう死にそうなので、ありがとうって言おう」とか、もちろん大事です。病気でもういつ死ぬかわからないから、「ありがとう」って言うのももちろん大事だと思うんですよ。とても大切なことだと思うんですけど、1日って平等なんですよ。もちろんそれは、120歳になって、あと100年生きるっていったら無理じゃないですか。絶対無理やなあって思うけど。でも、ボクらが、明日生きてるか、まだわからないんですよ。もしかしたら、隕石が降ってくるかもしれない。それにあたって、ボクが死んじゃうかもしれないんですよ。だから、1日って120歳の人も、1歳の子どものも、ボクも、みんな同じにあるんですよ。だから、もう会えなくなりそうだから「ありがとう」とかじゃなくて、毎朝会ったら「ありがとう」って言いたいなあとというふうに、今日のみんなの話を聞いて思いました。「ありがとう」ってすごい言葉だと思うんですよ。「ありがとう」って何だと思う？例えば、物を持ってくれたら「ありがとう」って言う。何か手伝ってくれたら「ありがとう」って言うし。もっと何か、使いたいなあって。「ありがとう」「どういたしまして」って、汎用性を広げようっていうことを、今日思って。でも、どこで使えるのかなあと思ったときに、朝起きてご飯がある。ご飯があるっていう人がいっぱいいると思うんですけど、「ありがとう」ちゃんと言えてますかね、皆さん。ご飯してくれてる、「おはよう」「ありがとう」言えてますか、皆さん。ちょっと振り返ってください。今日の朝、起きましたね。ホテルに泊まった人もいます。ホテルの朝食が出ました。「いただきます」じゃなくて、「ありがとうございます」って言えた人って、どれくらいいますかね。今、自分がさっきも言ったんですけど、話してる人は、今日で会うのが最後かもしれないんですよ。そんなわけないと思うんですけど。

実際にボクのおじいちゃんの話をするんですけども。おじいちゃん、今は79歳。この前、誕生日を迎えてね。79歳で、めちゃめちゃ元気なんですよ。びっくりするくらい。俺より元気なんですよ。仕事もバ

リバリしてて、稼ぎまくってる人なんですけれども。数年前に脳梗塞で職場で倒れたんですよ。ボク、すごいおじいちゃんっ子で、おじいちゃんアイラブユーなんですけど。まさか倒れると思ってないじゃないですか。めちゃめちゃ元気なのに、昨日まであんだけ話してたのに、まさか倒れるわけないって思ってたんですよ、当時は。当然、送り迎えとかもしてもらったときに、「ありがとう」って言えなかったなあって思って。「どうせ、明日も会えるやん」とか、「どうせ1年後も話せるやん」とかも思ってたんですけど、そんなことないんですよ。命って結構簡単になくなっちゃうんですよ、案外。だから、おじいちゃん、今すごい回復して元気なんですけど、日頃から毎日、毎朝「ありがとう」って言えるような世界が作れたらいいんじゃないかなあと思いました、今日は。



まだちょっとあるんで、めっちゃ話したいんですよボクは。あと3時間5分くらい話したいんですよ。でもなかなかそんな時間とれないんで、何を話そうか考えてるんですけど。最後なんで、ボクなりのここに来て、皆さんに持って帰ってほしいことを言おうと思います。ボクなりの。「また、会おう」これです。「また、会おう」。これを今日、みんなに言って帰ってもらいたい。できれば全員に、「また、会おうな」って言って帰ってもらいたいんですよ。何でかって言ったら、また会えない訳ですよ、ボクたちは。これで、「バイバイ」ってしたら、もう会えないんですよ99%。同じ県内だったら会うかもしれませんよ、たまたま。でもこういう場所では、もう今年が最後で会えないんですよ、話し合いの場所とかで。それでも、

こういうとこでできた関係性とか、人付き合いってずっと、先生とかも、おっさん、おばさんになっても、続いていくって、ボクはずっと森口先生に言われ続けて。何か一種の暗号として、「また会おう」ってみんなに言ってもらいたいなって思って。ボクは、もう5年めって言ったんですけど、1年めに来た子には、ほぼ会ってないです。ボクが1年めに来たときの3年生に会ってないし、2年生にも会ってないし。会いたいですよ、もちろん。みんなと会って、話したいんですけど、でも今このときって、明日には来ないんですよ。今ボクがしゃべってる1秒って、もう明日になったらないんですよ。何が残るかかっていったら、やっぱ気持ちとか、思い出とか、考え方とか、あの子おったなあとか、そんないっぱい思い出がここでボクはつくれました、この5年間。もうなくなっちゃうかって思ったら、すごく寂しいけど。ここでみんな「また会おう」って言って、また30年後かわからんけど、どっかでこんな会開いて、全員で集まれて、雑談できたらいいなあというふうに思いました。

今日、発表できてないなっていう子たちがいたら、あと5分話してください。5分ですみますか。発表できてない人たち、いけますか。それじゃボクは撤退しようと思います。「また、会おう」。それと「献血に行こう」。ありがとうございました。

**土庄町(df)** 20数年前からこの会に来させていただいてるので、本当にありがとうっていうか、この会自体は、本当にありがとうと言いたいと思います。小豆島の子も達も、本当にいじめがあったり、いろんなせない現実があったりですね。部落差別やいろんな課題を「自分らで語って解決しよう」って努力をしてきました。先生方とも、どんな話したらいいのかなって、どんなふうに持っていったらいいかなっていうことで、いろいろ話してきたんですけど。やっぱりこの会に来て、こんな元気もらったなとか、こんな熱もらったなっていう帰ってやってきた経験が、やっぱりたくさんあつ

たので、この中学生交流集会っていうのは、本当に「ありがとう」と言いたいですし、また違う形で、どっかでまた会えたら、ぜひ会いたいと思います。本当、体験とかいっぱい言いたかったんですけど、時間がもうないので、あんまり大人がしゃべったらいかんと思いますから、これぐらいで終わりにしておきたいと思います。ぜひ今後も、違う形でどこかで出会えたらいいなと思いますし、また今日経験したことを今の中学生はもって帰って、またそれぞれの学校ですらね、同じような語りとか、空気感をつなげていけたらいいなと思っています。本当にありがとうございました。

**あゆみ会(dp)** 大人がしゃべったらいかんのですけど、やっぱ最後なので本音で今、私が考えとることを、しゃべっておきたいと思っています。今、btさんとbzさんがしゃべっている姿を聞きながら、去年の三豊市で行った「大人の語る会」。今日みたいにね、2人がね、マイク持ってね、しゃべるんですよ。大人ばかりですよ。さっきbtさんが言りましたが、やっぱりしゃべることによって繋がる人脈がある。そこを大切にしたい。そのために、私たちはこういう語る会をやっているんですけど。



私が本音で今日感じていたことは、やっぱり部落差別に関する意見が圧倒的に少ないなあ。これ非常に気になります。1996年、1回めのこの会が始まったときにはね、それこそメインのテーマが部落差別、極端に言うたら、「だけ」やったんです。森口先生や吉成先生がどういう趣旨で始められたかというと、小学生には解放子ども会で語る場がある。高校生にも解放奨学生、奨学金



をもらっている、解放奨学生の会で語る場がある。中学生ないやないかと。それやったら、徳島のこの地で作ろうということで、始められたと私は勝手に思っています。だから、当時豊中中学校で解放学習会をやっていた子どもたちを連れて、1回めの会からここで話をしました。

鳴門の人権フォーラムが8月22日ですかね、あの中で、今年もパネリストになっているシンジさん。この人が1回めの中学生集会の実行委員長でした。前に出てきてね、何かこう、ふてくされたような顔して出てきて、ベルトをペランとしてね。「うわっ、これ大丈夫かな」って思ってたなら、言うことがしっかりしてます。豊中から連れてきた子も、徳島の中学生ばかりの中で、びっくりするくらいしゃべるんです。ほんで、部落差別をなくすための思いというのが交流するんですね。

ほんで、この会はスタートをしたんですが、今、三豊市でやってる会も、残念ながら部落差別に関わる意見の交流が少ない。今日のように、いじめとかLGBTQとか、障がい者とか、いろんなテーマに関わることの意見発表は、かなり充実しています。今日もそうでした。けど、やっぱり部落差別がないんです。何で部落差別に関わることを中学生高校生が語らないのかというと、これは語れなくしているんやと思います。語れなくしとんは誰か、学校の先生です。やっぱ、そもそも今の社会の中で部落差別というのが一体どういう位置づけで、そのことがあることによってどういうマイナス状況が生まれているか、ピンとくるような教えられ方をされてないんです。私は、学校の先生が悪いというふうに思ってます。だから何とかですね、今年こちらの会は閉じてしまいますが、私たち三豊市の語る会は、今年で4年めです。あと18年は続けようと思っています。部落差別も当然メインになるような会をやりたいと思ってますんで。8月11日に今年あるんですが、森口先生がそれこそ「スダチの苗木」のことについて語ったラジオ深夜便。それを元にして部落差別のことを語る意見発表者が1人おりま

す。だから、ぜひ今年も来てほしかったんですけど、こちらはこちらで非常に大事な状況があるので、残念ながらその子の発表を聞いてもらえなかったんですけど。私たちは、そもそもこの会が始まった趣旨、徳島は今年で一応、フィナーレということになるんですけど、何とか私たちはそれを受け継いで、部落差別も同時に語って交流できるような人脈づくりの会を続けていきたいと思います。今年はこれませんが、また来年からbzさん来てよ。btさんも。ありがとうございました。

**あゆみ会(dt)** 一番最後、締めくくるにはちょっとあれなんでね、皆さんに感謝とお礼ということで。

今日はね、この服を着てきました。これ「かりゆし」といいます。知ってますか。沖縄の正式な服装なんですね。いろんな平和学習のことであったりとか、広島のことであったりとか、いろんな話をしていただいたんですけど、お願い1つ。小豆島からたくさん来てくれて、どんどん意見、言ってくれましたけどもね。今日帰りにね。島が見えますよね、たくさんね。小豆島以外にもっと有名な島もたくさんありますし、世界遺産にしたい島がいくつかあります。どこでしょうね。ある方は、こんなこと言われてますね。大島青松園それから、長島愛生園、邑久光明園、この3つをね、世界遺産にしたいということで頑張ってる方がいらっしゃるんですね。今日その1つの大島の横を通って帰られるわけですから、この間たまたまそこへ行ってきたんですけどね。もう療養所で暮らせる方38人しかいないそうですね。やがて最後の日がやってくるというふうなことで、大島のことです。いろいろ活動している人がいるんですけど。

実は、さっきあった無知の話。もう痛感しました。人権子ども塾の2年前の11月の会ですね。dwくんがね、素晴らしい言葉言ってくれたんですね。「何で差別がなくならんいか、私たちは知らないのに、知ったことにしてしまっている。わかってないのにわかったつもりになっている。それは、ボク

はだめだと思う」ガツーンとききました。そのときに、目の前にいたのは、ハンセン病のすごい方が3人いらっしゃったんですね。黒尾さん、それから大島青松園でお医者さんをした人が1人、もう30年間、治療してたそうですね。dw くんの話聞いて、その方々にもう本当に手紙を書きました。それで、いろんな勉強してね。先生も社会科の教員をもう40年ちょっとやってましたので、偉そうに分かったつもりでハンセン病の授業をしてたんですね。でも、その話を聞いても全然わかってない自分に驚きました。これは、人権子ども塾の dw くんや bt くんやそのときのメンバーに教えてもらったことですね。わかったつもりでおって、全然わかってなかったのは去年ですね。

「知恵さん」っていう方、知ってますか。知ってる手を挙げて。いない？この人またね、調べてください。特に小豆島の人、皆さん。6か月のときにね、沢さんのお父さんが大島に沢知恵さんを連れて行ったんだそうです。赤ちゃんですよ。お父さん、牧師さんだったんですね。それが、沢さんと大島の出会いです。それから、ずーっと、沢さんは、大島に関わって、あるいは長島に関わって、そんな活動をされてます。そんなことも知らずにまたね、社会科の先生のような顔をして、授業をやった自分が恥ずかしくなりました。でもね、最近ね、知らないことを知れることが気持ちよくなってきて、今日もヤングケアラーの話とかね、もうケアをしてもらわないかん年齢なんですけど。

皆さんの話を聞いて、やっぱり、エネルギーをもらって、知らないことを知る、新しいことを知ること、ものすごく楽しみになってます。

最後ちょっとまとめます。お願いはね、大島のこと、それから、他の長島愛生園とか邑久光明園、ぜひ世界遺産にというようなことで、皆さんに受け継いでほしいなと思います。あといくつかあったんですけど、先ほど言っていただきました。もう2、3歩階段登ってください。何が見えてくるか、見てほしいのはね、やっぱり部落問題なん

ですね。今日、LGBTであったり、平和学習だったり、もうあと何歩か登ったら、ものすごく大事な課題が見えてきます。あと2、3歩登ってほしい。

それから、広島。素晴らしいですね。キミ。先生も去年、初めて広島へ行きました。修学旅行とか小学校の間に行くんですけどね、たくさんの外国人が家族で来てました。びっくりしました。お父さんが一生懸命に息子に説明してるんです。お母さんが一生懸命、娘さんに説明してるんです。修学旅行で行くのも遠足で行くのも大事だけど、家族で行くのは、もっと大事だなと思いました。先生も孫がいますので、孫を連れて行こうと思ってます。

まとまりませんでしたけれども、階段を何歩か登って、いろんな景色を見てください。今日はどうもありがとうございました。



**小豆島中学校(bf)** すみません、もう時間がないので手短かに言います。あずきじま、いや小豆島に必ず来てください。ありがとうございました。

**高瀬中学校2年(aw)** 言いたいことが2つあります。ボクは、ちょっとこの人間じゃないんですけど、なんかこの国の人じゃないんですけど、情報をちゃんと知ることが大事だけど、正しい情報を知ってほしいです。

2つめは、今日は、友達に誘われて来ました。この人権集会に来て、考えが変わったなと思いました。ありがとうございます。

**大山中学校1年(at)** 私は、2つめの作文について、まだ、外国の人に対する偏見や間違った知識をもってる人が、たくさんいると思うので、正しいことを知って、たくさ



んの人に広めたいと思いました。

**司会者(al・ak)** 最後に言い残したことはありませんか。まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで全体会午後の部Ⅱを終了したいと思います。皆さん、ご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに、人権問題をさらに深く考え、それぞれの学校や地域、家庭にもち帰ってください。

それでは、全体会午後の部を閉じることにします。ありがとうございました。

この後、引き続いて、閉会行事に移らせていただきたいと思いますので、準備ができるまでの間、しばらくお待ちください。

